

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 国立天文台の歴史的アーカイブスに関するシンポジウムプログラム

2009年12月11日～12日にわたって開催される「国立天文台の歴史的アーカイブスに関するシンポジウム」のプログラムができた。12月9日現在、参加者は51名、講演申し込みは21件になっている。SOCは、渡部潤一（国立天文台 天文情報センター）、中桐正夫（国立天文台 天文情報センター）、嘉数次人（大阪市立科学館）、洞口俊博（国立科学博物館）、土佐誠（仙台市天文台）、飯島 忠（測量史研究会）、藤原智子（九州大学）の各氏、LOC（世話人）は、中桐正夫、中根麻希子、渡邊香理、渡部潤一、佐藤英男、松田浩、小池明夫、佐々木五郎である。

日本は名実共に天文学をリードする国となり、次々と新しいプロジェクトが立ち上がる一方で、その軌跡を語るべき、一時代を築いた観測装置や測定装置、あるいは写真乾板などが見るも無惨な状態で放置され、あるいは廃棄されていた。

このような状況を憂慮した国立天文台では、2008年4月に天文情報センターに「アーカイブ室」を立ち上げ、天文台の倉庫などに保管されていた各種の観測装置・測定装置を発掘・復元し、同時に民間業者などへわたって行方不明となっていた装置を捜索・回収し、また過去の写真や映像のデジタル化を進め、さらには所属が不明となった大量の写真乾板の整理に着手している。これらの一連の成果は、子午儀資料館や天文機器資料館（旧自動光電子午環フロア）への展示物の充実などに結実しつつあり、台外からも高く評価する声が届きつつある。

一方、こういった活動をホームページやアーカイブ室新聞などで公開をはじめると、OB・OGだけでなく、これまで国立天文台にあまり関係がなかったような思いがけない方々から、助言や各種の有益な情報が寄せられるようになった。そういった情報によって、これまで行方不明であった観測装置の所在場所が確認され、無事に回収することができた例もあるほどである。そこで、これまで発掘・復元された、これらの歴史的アーカイブスを、参加者の皆さんにも見学をして頂くと共に、われわれが知らなかった由来や用途についての情報交換、あるいは今後の活用などについての議論の場を持ちたい、と考え企画した。

天文学だけではなく、関連分野である測地学、古文献学などの幅広い研究者、それにアマチュア研究者も出席をお願いし、今後のアーカイブ室はもちろん、広く今後の日本の天文学の歴史的アーカイブスをどのように進め、また活用していくかについて、議論を行う場になればと願っている。

現実に集まった講演、参加者は目的に沿った幅広い分野にまたがるものになった。国立天文台にとって初めてのアーカイブスシンポジウムで予算、旅費の用意もない中、多数の参加者、講演が集まったことはうれしいかぎりであり、ご協力いただいた方々に感謝する

次第である。

プログラムは次のとおりである。

国立天文台の歴史的アーカイブスに関するシンポジウムプログラム

日時:2009年12月11日(金)13時30分～2009年12月12日17時15分

場所:国立天文台すばる解析研究棟 大セミナー室

◎12月11日:13時30分～20時30分:座長:渡部潤一(国立天文台)

1) 13時30分～13時45分(15分):渡部潤一(国立天文台天文情報センターアーカイブ室長)
「開会の挨拶」

要旨:開会の挨拶:カイク室の発足と活動について、及び村上陽一郎先生のアーカイブ室へのメッセージ紹介

2) 13時45分～14時25分(40分):洞口俊博(国立科学博物館理工学研究部)

「国立科学博物館として、天文に関するアーカイブについて」

要旨:国立科学博物館の天文に関するアーカイブスの現状にあるか、また将来どのようなことを考えているかなどこれからの展望について

3) 14時25分～14時55分(30分):大迫正弘(国立科学博物館 理工学研究部)

「国立科学博物館所蔵の測地学資料について」

要旨:国立科学博物館に収蔵されている明治から昭和の半ばごろまで陸地測量部で使われた測量機械や測地学委員会由来の測定器など、わが国の測地学の歴史的資料を紹介します。

休憩:14時55分～15時10分(15分)

4) 15時10分～15時30分(20分):伊藤節子(元国立天文台)

「東大南葵文庫の調査」

要旨:南葵文庫は、紀州徳川家の当主徳川頼倫によって、明治29年に創設された文庫で、大正12年9月1日に起きた関東大震災で、壊滅的打撃を受けた東大図書館に寄贈された書物群を指す。その膨大な数から、今まで調査されてこなかったが、我々のグループが調査を始めて、現在、その半ばであるが、今までの調査の概要について報告する。

5) 15時30分～16時00分(30分):土佐 誠(仙台市天文台)

「東北大学天文教室および仙台市天文台の古い観測機器などについて」

要旨:仙台市天文台)に最近東北大学が廃棄したものが何点かありますので(六分儀(玉屋商店、1944年製)、セオドライト(測器社製)、パロマーチャート、ボン星図、IRAFマップ など)についてもお話したい。

6) 16時00分～16時30分(30分):嘉数 次人(大阪市立科学館)

「地域科学館における天文歴史資料の収集 -大阪市立科学館を例にして-」

要旨:天文学を扱う博物館・科学館では、天文学の研究に用いた観測機器や観測の生データ、記録など、研究に関わる資料を収集している施設もある。発表では、大阪市立科学館が所

蔵する資料や、収集方法やメリット・デメリット等を紹介する。

7) 16時30分～17時00分(30分):藤原 智子 Tomoko FUJIWARA(九州大学 高等教育開発推進センター (物理))

「歴史的記録を用いた天体の長期的変動の探査」

要旨:Ptolemaiosの「Almagest」(紀元2世紀)を始めとし、歴史的な天文文献は当時の空の様子を私たちに教えてくれる、貴重な観測記録として扱うことができる。本研究では、それらの記録を用いた、天体の未知なる変動の探査とそのメカニズムの解明について、講演を行う。

8) 17時00分～17時05分(5分):渡辺文雄(上田創造館) :

「ポスター発表:望遠鏡が拓いた宇宙400年展」

要旨:本年8月に、国立天文台の初期に使われた機器を借用して展覧会を行った。この展覧会の概要について、ポスター発表させていただきます。

9) 17時05分～17時35分(30分)野上 長俊(住友化学(株)生産技術センター 愛媛プロセスGr)

「Archenhold天文台(Berlin)の1世紀」

要旨:1896年に天文学者Friedrich Simon(1861-1939)によって旧東ベルリン郊外創設された天文台(21m焦点反射望遠鏡設置)の一般人への天文学の啓蒙普及の足跡を概観する。

10) 17時35分～18時05分(30分):小沢賢二(安徽師範大学(中国))

「古代中国における月食記録と朔望之会について」

要旨:サロス周期は古代バビロニアのカルディア人の経験律から求められた日食および月食発生(223朔望月)であるが、この周期を発見するためには、サロス周期の基礎となる月食周期である原初サロス周期を認識していなければならない。

カルディア人は原初サロス周期からサロス周期を求めたが、古代中国人は原初サロス周期から中国式周期を求めたことを記録からひもといてみたい。

18時15分～20時30分:懇親会 於:国立天文台コスモス会館

◎12月12日(土曜日):10時00分～12時30分:座長:松尾厚(山口県立山口博物館)

1 1) 10時00分～10時30分(30分):中桐正夫(国立天文台天文情報センター アーカイブ室)

「国立天文台子午儀資料館、天文機器資料館から国立天文台博物館へ向けて」

要旨: 国立大学には講座当たりの基準面積という制限があり、また研究者は新しい研究には熱心であるが、古い機器には関心を示して来なかった。大学共同利用機関の国立天文台にアーカイブ室が置かれ、歴史的に貴重な観測機器、測定機器等の発掘、復元、展示、有効利用を進め始め、将来的には国立天文台博物館を目指している。

1 2) 10時30分～11時00分(30分):松田浩(国立天文台天文情報センター暦計算室)

「写真天頂筒について」

要旨:写真天頂筒:PZTは、観測地点の天頂付近を通過する恒星を写真乾板に撮り、地球

の自転運動を測定する望遠鏡である。時計や他の観測手段の精度が向上したため、1988年に観測は終了した。今年10月に展示のため移設したので報告する。

1 3) 11時00分～11時30分(30分)：佐々木五郎(国立天文台先端技術センター)

「いろいろな望遠鏡で撮影された星夜写真乾板の長期保存に向けて」

要旨：昔に撮影された大きさの違う乾板、様々な場所や各種の望遠鏡を使用しての星夜写真乾板などを清掃して長期保存をする等。

1 4) 11時30分～12時00分(30分)：山崎裕子(国立天文台天文情報センター図書係)

「一般市民による皆既日食スケッチ(1887年)の保存状況の変遷」

要旨：1887年(明治20年)、政府の指導で日本の一般市民多数が皆既日食のスケッチを行ったが、その後スケッチは保管場所を転々とし、発見と埋没が繰り返された。本発表ではその経緯と国立天文台図書室における現在の保存状況について述べる。

1 5) 12時00分～12時30分(30分)：真鍋盛二(国立天文台 VLBI 観測所)

「水沢VLBI観測所所蔵の歴史的資料について」

要旨：水沢VLBI観測所所蔵の歴史的資料について紹介したい

12時30分～14時00分(1時間30分) 休憩及び見学 ※ 見学13時00分-14時00分

◎12月12日(土曜日)14時00分～15時30分：座長：嘉数 次人(大阪市立科学館)

1 6) 14時00分～14時30分(30分)：平山智啓(元国立天文台)

「人工衛星光学観測について」

要旨：ベーカー・ナン・シュミット・カメラによって人工衛星の写真位置観測が三鷹(のちに堂平)で行われた。主にこの観測に関連して、語られることのなかった事項をお話したい。

1 7) 14時30分～15時00分(30分)：御子柴廣、森 明(国立天文台野辺山宇宙電波観測所)

「200MHz 電波望遠鏡の復元」

要旨：我々は、国立天文台(当時は東京天文台)で最初につくられた電波望遠鏡を野辺山観測所構内に復元した。これは、1949年に畑中武夫氏らによって製作された200MHz帯の電波望遠鏡である。

1 8) 15時00分～15時30分(30分)：佐藤利男(東亜天文学会)

「文献資料から見た国立天文台などの古機器」

要旨：国立天文台などに残る古い天文機器の中には、今ではその原状や由緒が十分に確認把握されていないものもあり、これらについて今に残る文献情報との照合によって新事実が確認されれば、日本の近代天文学の歩みを知るためにも意義あることである。ここでは部外者の立場から、関係文献の一端を紹介する。

15 時 30 分～15 時 45 分 (15 分) 休憩

◎12 月 12 日(土曜日)15 時 45 分～17 時 15 分：座長：木下 宙(国立天文台 0B)

1 9) 15 時 45 分～16 時 15 分(30 分)：飯島 仁(標石グループ(測量史研究家))

「幻の経緯度原点、1 等三角点「三鷹村」」

要旨：天文台構内にある 1 等三角点は「三鷹村」の名称がつけられています。三角点は地形図を作製するために全国に設置されましたが、1 等三角点「三鷹村」は通常の三角点と違い、将来経緯度原点とすべく建設された特殊事情を持つ三角点です。その三角点「三鷹村」の由来について発表します。

2 0) 16 時 15 分～16 時 45 分(30 分)：佐久間精一(VSOLJ(日本変更観測者連合))

「一戸直蔵博士資料入手の経路」

要旨：アーカイブ室に受け入れてもらった一戸博士資料の神田茂、五味一明、富田弘一郎氏から入手した経緯について。

2 1) 16 時 45 分～17 時 15 分(30 分)：松尾厚(山口県立山口博物館)

「山口県立博物館収蔵の天文学史関連資料」

要旨：要旨：山口県立博物館が収蔵している江戸時代から明治初期までを中心とした